

東京パラで「全力疾走」

ふじみ野在住ボート代表 八尾選手壮行会

小中の後輩 寄せ書きや演奏

東京パラリンピックのボート競技「混合PR3舵手つきフォア」に出場するふじみ野市在住、八尾陽夏（やお・はるか）選手（23）＝戸田中央総合病院ローイングクラブ＝の激励会が5日、同市役所で開かれた。高畑博市長をはじめ、八尾選手が在籍していた小中学校の生徒や校長らが出席。小学校からは寄せ書きの応援メッセージが贈呈され、中学校からは吹奏楽部による応援ソングの動画上映が行われた。

（毛利伸一）

八尾選手は和歌山県生まれ。父親の仕事の関係で幼少期はドイツや東京で過ごした。小学校4年時に都内からふじみ野市に転居。同市立亀久保小5年時に突然、脳梗塞に見舞われ、半身不随になった。市立大井東中に1年在籍後、筑波大付属の特別支援学校に転校した。

勝。今年のパラリンピック世界最終予選で6位の成績を収めている。

激励会では亀久保小6年生102人が応援メッセージをつづった寄せ書き旗2枚を贈呈、大井東中吹奏楽部の生徒らが「世界に一つだけの花」を演奏した動画を上映した。生徒らは「一体に気を付けて頑張つてほしい」とエールを送った。

高畑市長は「国の代表として世界の舞台に立ち、しかも

幅跳びなど3種目で優勝した。大学からボートに転向し、19年のアジア選手権は準優

くれると思う。結果を出してほしいと言いたいが、体調管理をしてじっくり楽しんでほしい」と激励した。

八尾選手は「皆さんに出場報告ができたことをうれしく思う。参加競技はアジアでは日本だけが出場し、日本以外はいずれも強豪国ばかり。相手にプレッシャーを与えられるように全力疾走したい」と意気込みを語った。

【ボート競技・混合PR3舵手付きフォア】四肢または視覚に障害のある選手4人と指示役1人の計5人乗りのボートで実施する競技。東京パラ大会では27～29日に開催する。



八尾陽夏選手（中央）に応援メッセージの寄せ書き旗を寄贈した亀久保小学校6年生の鈴木美空さん（左から）と清水理紗子さん、佐々木翼君。右から2番目は高畑博市長＝ふじみ野市役所